



平成23年4月7日

第15号

宮城教育大学ESD・RCE推進会議から、学内外のESD・RCEの取り組みやニュースをお知らせします。

I. これまでのESD 関連事業報告

1. 東日本大震災後の気仙沼地域情報 (3月26日・土)

平成21年に開所した「気仙沼市・宮城教育大学連携センター」へ、本学から救援物資を届けられました。当日、白幡勝美教育長にお目にかかることができましたが、生徒5人が亡くなり、8名が行方不明とのことで、大変心を痛めていらっしゃいました。そして、『皆に忘れられることが怖い、落ち着いたところに本当の支援が必要になる』とおっしゃっていました。また、気仙沼市役所までは、救援物資がところ狭しと届いているのですが、ガソリンや仕分け等の関係で、避難所にはまだまだ不十分のようでした。下記の写真は、本学が事務局を担当している仙台広域圏の一地域でもある気仙沼地域の震災後15日現在の状況です。なお、国内・国外RCE、ASPUivNet加盟大学等からも励まし、支援のメールを頂いていますので報告させていただきます。



気仙沼市役所から南気仙沼駅までの道路



南気仙沼駅への途中で



南気仙沼駅周辺

2. NPO 法人「JFMF 友の会」と TV 会議開催（3月31日・木）

本学連携主幹付研究協力にて、見上副学長と気仙沼市・宮城教育大学連携センター青野氏が、東京のNPO 法人「JFMF（Japan Fulbright Memorial Fund）友の会」と TV 会議を開催した。「JFMF 友の会」からは、前大学評価・授与機構長 木村孟氏が出席し、今回の東日本大震災の状況と震災後の対応について質問があり、見上副学長からは宮城県全域、青野氏からは主に気仙沼地域の被害状況の説明後、今後必要とされる支援策等について約1時間話し合った。今後、「JFMF 友の会」からは、心のケアも含めての支援が期待される。



3. 「いぐねの学校」の田んぼ!! の現状です。（4月5日・火）

毎年、田植えをし、今まで10回いぐねの学校を開き、稲刈りをしてきた名取市の洞口さんの田んぼの震災後の現実です。手前の冷蔵庫あるところが畦道で、遠くに人が立っているところが、隣の田んぼとの境界の畦道です。田んぼの中には、風呂桶、テレビ、冷蔵庫、チャイルドシート、なぜか梅酒のビン丸ごと、家屋の木材などが散乱しています。片付けようにも、何が潜んでいるか分からない状態で、手付かずの状態です。津波が押し寄せ、田んぼは海水に覆われました。塩害から復旧するには3年かかるでしょう。残念ながらいぐねでの今年の田んぼの学校は、中止せざるを得ない状況です。

毎年、夏休み開催の「いぐねの学校」や秋の「いぐねの収穫祭」などを楽しみにしている子どもたちや、父兄は大変残念がることでしょう。



2010年8月1日第10回いぐねの学校
（稲の赤ちゃんをみつけて、子ども達は大喜びでした）